

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	08 経済学部	責任者	高安 雄一
基準4	教育課程・学習成果	総合自己評価	A
★基準4の総合自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<p>〈回答〉授与する学位ごとに、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を定め、公表し、これら教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成し、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行い、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価し、教育課程及びその内容、方法の適切性を定期的に点検・評価し、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っている。</p>			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
評価の視点1 【基礎要件●】	方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		A
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		A
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
評価の視点1 【基礎要件●】	方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。		A
評価の視点2 【基礎要件●】	方針は、学位授与方針に整合している。		A
評価の視点3※ 【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		A
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。		
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス		A
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー		A
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ		A
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9,10		A
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス		A
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。		A
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A

評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点11	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9	A
評価の視点2※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	A
評価の視点3※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	A
評価の視点4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点6※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む））。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）	A
評価の視点7※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点8	1 授業当たりの適切な学生数を設定し、運用している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件●】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	A
評価の視点2※ 【基礎要件●】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート10,12	A
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1※	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強い	

【評価要件○】	ものによっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 *学科の状況(根拠資料)を総合的に判断して自己評価してください。	A
評価の視点2※ 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 《学修成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 *学科の状況(根拠資料)を総合的に判断して自己評価してください。	A
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について	A
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っているか。	A
★項目(7) 4-7①改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
《回答》点検・評価シートの作成を通じて判明した問題点を教授会で報告し、課題を共有した。		《根拠資料》 08-C4-1：2023年6月経 済学部教授会議事録

II 現状を踏まえ、学部全体の長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	<ul style="list-style-type: none"> 外国語科目、1年次必修科目を中心にクラス指定による少人数編成を行い、学生の着実な理解を促している。 1年～4年次まで演習科目を整備し、教員・学生間のインタラクティブな教育を実施している。 学生懸賞論文の募集、演習成果発表会等学生が学修成果を発表できる機会を提供し、学修意欲の向上を図っている。 学科間の相互履修可能性を高めた教育課程編成を行い、学生の学修満足度を高めている。
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった学科の新たな問題点や課題について、学部としてどう捉えるか今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	学修成果の測定を目的とした学生調査や卒業生、就職先への意見聴取は学部としては行われていないため、これらを学部として実施すべきかどうかを含め検討を考えたい。
--------	---

IV 【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
①	2	2022	学習支援の推進	少人数で高い専門性を学習する機会である「専門演習I(ゼミ)」の入室について、	1次募集～3次募集までのゼミ入室志望者を確認し、希望者・決定者の人数を把握する必要がある。	ゼミの最終決定率 A：85%以上 B：80%以上	2023：D 2024：C 2025：B

				選考スケジュールの検討、必要書類の作成、担当教員との調整（パンフレット依頼等）、学生への連絡・申し込みに関して効果的に作業を進め、ゼミ入室志望者・決定者の人数増加につなげる。		C：75%以上 D：75%未満	2026：A
①	5	2023 (2022 ～継続)	教務委員会、 入学時英語 プレイスメ ントテスト 実施	入学時に全新生入学生を対象に英語テストを実施する。	成績不良者の発生を前年度より減少させる。	A(100%)：前年度より大幅に減少 B(80%)：前年度よりやや減少 C(50%)：前年度と同水準 D(20%)：前年度より増加	2023：C 2024：C 2025：B 2026：B 2027：A 2028：A
①	6	2023 (2022 ～継続)	教務委員会、 ゼミ紹介パ ンフレット 作成	従来作成していた教員による「経済学演習教授要綱」と学生による「ゼミ紹介パンフレット」を1冊に統合した冊子を1年生全員へ配布する。平成31年度より、電子化することによりコスト削減を更に進める。	1年生のゼミ入室希望者の割合を70%以上にする。	A(100%)：70%以上が入室 B(80%)：約70%が入室 C(50%)：約65%が入室 D(20%)：約50%が入室	2023：B 2024：B 2025：B 2026：A 2027：A 2028：A
①	10	2006	英語部会、 英語力テス ト実施	経済学部学生の現行英語カリキュラムの効果をはかる一つの手段として、TOEIC® Listening & Reading IPテスト、VELCテスト等、客観的に伸長度の測定が可能であるテストを大学内で実施する。	1) 熟練度テストである外部試験を利用することによって、学生の英語学習に取り組む動機づけを強化し、学習成果を客観的に把握する機会を提供することができる。 2) 学生の英語学習に対する動機づけを強化するとともに、学習成果としての程度の英語力がついたか、また、英語力がどの程度向上したかを客観的に把握することができる。 3) 一定基準以上の得点は、英語力の証明として、就職活動に際して有利にはたらくことが期待できる。 4) 学生の試験スコアデータは、英語カリキュラムの評価・改善のための基礎資料として、英語教育の質の保証・向上に資することが期待できる。	A(100%)：受験者総数201名以上 B(80%)：受験者総数180~200名 C(50%)：受験者総数115~125名 D(20%)：受験者総数50名以下	2023： ABCD
①	11	2023 (2022 ～継続)	演習成果発表会実行委員会、 演習成果発表会	専門演習（ゼミ）による研究発表を行う。パワーポイント等を用いた口頭発表を行い、審査員の審査により優秀と認められたチームが表彰される。	11月～12月に開催するものとして、参加チーム数を30チーム以上を目標とする。/実行委員会を開催し、スケジュール。実施方法、応募、審査方法などを検討し決定する。	A(100%)：演習成果発表会の開催 B(80%)：実施方法・審査方法の検討と決定 C(50%)：スケジュールと応募方法の検討と決定 D(20%)：委員会の開催	2023： ABCD

①	12	2023 (2022 ～継続)	FD委員会、 経済学部入 学前教育	推薦入学試験合格後の高校生 に対する学習意欲の維持およ び、大学生活にスムーズに移 行するために、推薦入試決定 後から入学までの期間に入学 前教育を行う。社会経済学科 では国語と英語を、現代経済 学科では国語と数学を補習で きる入学前教育を実施する。	・FD委員会を開催して入学前教育につ いて審議し、実施する内容を決定する。 ・実績を踏まえ、入学前教育を委託する 外部業者と打合せを行う。 ・1～3月に入学前教育を実施する。 ・外部業者から受けた報告書の内容を精 査し、入学前教育の効果を評価する。	A(100%)：報告書 作成、入学前教育 実施の評価 B(80%)：入学前教 育の実施 C(50%)：入学前教 育内容の決定 D(20%)：FD委員 会開催	2023： ABCD
---	----	-----------------------	-------------------------	---	--	--	---------------

V【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>総合評価Aであるばかりでなく、すべての評価の視点がA評価となっていることから、教育課程の改善・向上に向けた点検活動が継続的に行われていることが推認される。学修成果の測定方法や測定結果の活用事例について一層の検討を重ねられることが期待される。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>2022年度に引き続き、2023年度も各項目がA評価としてなっており、教育課程の改善の取り組みが進められていることが確認される。教育課程・学習成果について、教育課程の改善・向上に向けた点検活動が行われていると思われる。とくにゼミへの参加率を高める取り組みや英語教育の成果の測定は大変いい取り組みである。</p> <p>事業計画のアクションプランの中で「英語カテスト実施」「演習発表会」が実施されているので、これらについて両学科で学習成果の測定方法、評価指標を設定されるとよいと思われる。英語の外部試験を活用させる方法を今度も拡大させるべきと考えられるが、受験費用については学生の負担を軽減できるような工夫があれば望ましいと思われる。今後も改善・向上への取り組みに期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 (評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位に

ふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。